



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
12/18 (月)	▲ 1,500	▲ 200	▲ 1,700	国庫短期証券発行・償還 (3M)	CP等買入 ▲ 100 国債補充供給 + 41,500		日: 日銀金融政策決定会合 (1日目)
12/19 (火)	▲ 3,000	▲ 5,000	▲ 8,000		共通担保 ▲ 6,300	社債等買入 + 1,000	日: 日銀金融政策決定会合 (2日目) 米: 住宅着工件数 (11月) 欧: ユーロ圏CPI
12/20 (水)	▲ 3,000	+ 51,000	+ 48,000	国庫短期債償還発行・償還 (1Y) 国債償還 (5年・10年・20年)			日: 貿易収支 (11月) 米: 経常収支 (3Q)
12/21 (木)	▲ 4,000	+ 2,000	▲ 2,000				米: GDP (3Q)
12/22 (金)	▲ 3,000	+ 5,000	+ 2,000				日: 日銀金融政策決定会合議事要旨 (10月31・31日分) 全国CPI (11月) 米: 個人消費支出価格指数 (11月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1,100億円増加の529兆7,000億円から始まった。その後、13日には源泉所得税揚げや国債発行等の要因により、同残高は528兆7,000億円まで減少したが、15日には年金定時払い等により10兆100億円増加し、538兆7,100億円を越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、▲0.011%から始まった。その後、週を通してビットサイドの資金調達意欲は底堅く、同金利は▲0.011%~▲0.008%で推移した。

ターム物は1~2W物を中心に▲0.02%台~▲0.01%台で取引された。

来週の予定としては、国内では、18日・19日に金融政策決定会合が開催され、海外では21日に米GDP (3Q) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.060 ~ 0.010
2M	▲0.040 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レポ>

足許GCは週初▲0.085%近辺から始まり、週央まで同水準で推移した。積み最終日となる14日の取引は▲0.10%台から始まり、▲0.1%台後半まで低下した。新積み期となる15日は▲0.12%が出合いの中心となった。

SC取引は2年438~455回債、5年149~163回債、10年350~372回債、20年180~186回債、30年65~80回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.050

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆2,200億円で、週間償還額 (約1兆1,600億円) を上回った。発行市場は、不動産や建設業、卸売業等の複数業態にて大型案件が実施され、活況なマーケットとなった。発行残高は前週末の28兆4,917億円から14日時点で28兆7,382億円と増加した。発行レートは概ね0%近辺から一部の銘柄においてはベースス台での出会いも見られた。

来週の週間償還額は、約1兆2,000億円となっている。発行市場は、5・10日絡みの発行も相応に見込まれ、活況なマーケットとなると思われる。発行レートは、18・19日に開催される日本銀行の金融政策決定会合への警戒感もあり、レート水準が定まりにくい展開が予想される。

<TDB>

15日の3M (1201回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1619% (前回債▲0.1433)、平均落札利回り▲0.1723% (前回債▲0.1556%) となった。来週は18日に1Yの入札、22日に3Mの入札が予定されている。